

学部だより

専門性を高める：教育福祉学部から教育学部へ

学部長 大倉 孝 昭

教育福祉学部は、平成24年度から教育学部に変わります。もちろん、在学中の皆さんには卒業まで教育と社会福祉の課程が保証されることは言うまでもありません。教育学部になっても本学部の教育から“福祉の心”が無くなってしまってもありません。

とはいえ、本学部がこのような大きな改革を行うことを決めたのにはわけがあります。

一つは、学生の指向があまりにも多様でまた広がりすぎたということです。保・幼・小はもちろんのこと、中学・高校・社会福祉士と免許・資格へのニーズが広がり、それらを複数希望する人が増えてきました。他大学では別の学部に分かれている教育学と社会福祉学を「同時に学びたい」という人達も出てきました。また、不景気や就職難が続く、多くの免許・資格を持っていると就職に有利だと考える人が増え、取得できそうなものには全て手を出しておこうといった履修状況の人も見受けられるようになってきました。その結果、学習内容が消化不良となったり、授業を途中で放棄したりしてしまう弊害が出てきたのです。

もう一つの理由は、皆さんが出て行く社会は日々複雑化しており、それに見合った高度な専門性が求められるようになってきているということです。例えば、“薬剤師資格”は、大学の薬学の課程で6年間（2006年以前は4年間）の勉強をした後に薬剤師国家試験に合格しないといけないよう、制度が変わりました。学生の立場からは、「以前は4年間でよかったのに不公平だ。」と考える人もあるでしょう。しかし、医療技術の高度化に伴い、医師と同じように高度な専門職だとみなされるようになったのです。

保育・教育職にもこれまで以上の“専門性”が要求されるようになってきました。保育実習や幼稚園実習を経験すると、生まれて6年も経たない子どもの個性が、極めて多様であることに驚くと思います。また、障がいや個性の延長上でとらえる考え方も徐々に認知されつつあります。多様な子ども達を受け入れることができるように、専門性を高めておかねばならないことが納得できるでしょう。

PISAの学力調査で最上位にランクされるフィンランドでは、教師はすべて6年間の教育とトレーニングを受けています。それほど学ぶべきことが多くなってきたという証拠でしょう。日本でも教員免許状6年制化の議論がおきています。

幅広く学ぶことは重要です。本学部は多様なメニューを提供しているので、「いろいろな可能性を試してみたい。」と考えるのも当然です。しかし、大学は4年間しかありません。異なる分野として確立された学問を平行して学ぼうとすれば、当然、内容は薄くなってしまいます。「他大学では得られない専門性の高い」の保育職・教育職になることが、学生の皆さんの強みではないでしょうか？ オンリーワンの“大谷ブランド”を自らのものとするには、4年間は短いです。“目移り”状態では、ブランドは身につけません。“大谷ブランド”は、職業人として社会貢献する中で『にじみ出てくる専門性と人間性』だと確信します。迷っている人、目移りする人は、全体像が見えていないために“専門性がわからない”だけです。「今後、社会がどのような保育職・教育職を必要とするのか、求められる資質は何か」をじっくり見つめ、将来的に必要となる専門性を身につけるため、学びを深める努力をしていきましょう。そして、たしかに“大谷ブランド”を共につくりあげていこうではありませんか。